

土橋中学校(日置市) 多角的な視点を養う



スクラップ帳を見せ、記事を紹介する生徒

実践校2年目。新聞に親しむことに注力した1年目。各生徒の興味に合わせ、多から読んで考えをまとめ、様々な分野の記事が登場しつつ、どこでなど5W1Hを意識した記事を書く内容に発展させた。

階段の踊り場に新聞閲覧や切り抜き作業をできる「NIEコーナー」を開設。全校14人という特性を生かし、1人1冊ずつスクラップ帳を作って置いている。月1回の「朝からNIE」では、生徒が気になる記事と感想を紹介する「スクラ」と評価した。(吉田文)

鹿児島県内で2020年度にNIE(教育に新聞を)実践校に指定された小学校5校、中学校5校、高校3校の計13校が新聞を

活用した授業などに取り組んだ。各校が進める活動や授業の様子を6回に分けて紹介する。

かごしま NIE実践校

校内放送で紹介する記事を音読する放送委員の児童



笠野原小学校(鹿屋市)

朝の活動で記事放送

実践校になり1年目。新聞を読み取り、情報を生かす力や社会とつながる力を育てることを目標に、学年ごとにテーマを設けて取り組む。

例えば、1年生は紙面の写真を眺めて新聞に親しむことから始め、3年生は記事資料に郷土の産業について調べた。6年生は見出しやリード文など紙面の構成を参考に、日本文化を発信するパンフレットを作った。

放送委員会活動でも、新聞を使って音読の練習を重ねた。朝の5分間、興味を持った記事と感想を校内放送で紹介した。5年の下村尾沙羅さんは「選ぶ記事はみんなばらばら。たくさん話題を知ることができ、世界が広がった」と話す。

担当する山之内勲教諭(38)は「子どもたちが新聞を手取る機会が増え、時事ネタが話題になるようになった」と手応えを語った。(成尾由理香)

ワークシートを基にした英会話に挑戦する児童たち



大川内小学校(出水市)

教科学習と密に連動

4年目を迎え、授業中の活用を積極的に進めた。教科書に出てくる内容と同じテーマの記事や写真を集めておき、自作したワークシートを「類似問題」として利用。教科との関連が深まり、子どもの書く力や意見を交わす力も高まった。

本年度から教科化された外国語では、6年生が絶滅の危機にある動物の話題を、教科書と新聞記事で学び、記事に出てくる動物や国名を使って英会話。3年生は

国語で習う要約の方法を基に記事をまとめ直した。担当の田尾久美子教諭(45)は、授業の年間計画にはまる記事に日頃から注意し、「学習効果の向上だけでなく、教材作成の手間を減らせた」。必修化されたプログラミング教育の研究には、本紙「オセモ」の連載を役立てた。

実践校指定は終わるが、新聞を教材にする毎月の「NIEタイム」は来年度も続ける。(種子島時大)